

講師研修 2023/12/10

- 冬期講習の授業の設計
 - 75分の使い方
 - ◆ 雑談せずテスト（50分）
 - ◆ 解説（25分）
 - 過去問を7年分解く
- 都立入試 ※講師ハンドブック参照
 - 国語
 - ◆ 大問
 - ◆ ①漢字 2×5（1分）
 - ◆ ②漢字 2×5（1分）
 - ◆ V模擬は採点が厳しいから、丁寧に書いてもらうようにする
 - ◆ ③小説文 5×5（11分）
 - ◆ ④論説文（15分）
 - ◆ ⑤古典的文章（15分）
 - ◆ 俳句や詩を読み飛ばさないことが大事
 - ◆ 問題自体は現代文と変わらない。
 - ◆ 解き方のポイント✔
 - ◆ ①冒頭部分をしっかり読む
 - ◆ ②下線部読み
 - ◆ 下線部が出てきたら問題を解く
 - ◆ ③消去法で解く
 - ◆ STEP
 - ◆ ①マイクリアで演習
 - ◆ ②都トレ・必勝シリーズ
 - ◆ ③V模擬の過去問・都立入試
 - ◆ ④弱点だけ時間を測って解く
 - ◆ 200字作文
 - ◆ 問題
 - ◆ 本文に関連した問題が出題される
 - ◆ 配点 ※減点方式
 - ◆ 自分の意見が書かれている（4点）
 - ◆ 自分の具体的な体験・見聞（3点）
 - ◆ ○○年前
 - ◆ 友達から・・・
 - ◆ 筆者の主張を踏まえている（3点）
 - ◆ 演習の仕方
 - ◆ まりあ先生の教材
 - ◆ 都トレの一番後ろにある問題
 - 数学
 - ◆ 大問
 - ◆ ①大問集（46点）
 - ◆ ②規則性に関する問題（12点）
 - ◆ ③関数（15点）
 - ◆ ④平面図形（17点）
 - ◆ ⑤空間図形（10点）
 - ◆ 解き方のポイント✔
 - ◆ ①61点問題を確実に解けるようにする（大問1 2 3を活用）
 - ◆ 優先順位
 - ◆ ①
 - ◆ ②（1）
 - ◆ ③（1）（2）
 - ◆ ④（1）（2）
 - ◆ ⑤（1）
 - ◆ ③（3）
 - ◆ ②（2）

- ◆ ④ (3)
- ◆ ⑤ (2)
- ◆ ② 单元ごとのポイントを抑える
- ◆ ③ 空欄をなくさせる
 - ◆ 長さを測る
- ◆ ④ 見直しをさせる
 - ◆ 間違っているかを生徒が解いている間に見ていく

◆ STEP

- ◆ ① 61 点問題を確実に解く
- ◆ ② 関数を強くする
- ◆ ③ 平面図形を強くする
- ◆ ④ 規則性問題を強くする
- ◆ ⑤ 空間図形を強くする

○ 英語

- ◆ 大問
 - ◆ ① リスニング (9 分)
 - ◆ ② 図表を使った問題・メール (12 分)
 - ◆ ③ 対話文読解 (12 分)
 - ◆ ④ 長文読解 (15 分)
- ◆ 長文苦手な生徒
 - ◆ (読解 B・A) → フォレスタ英単語 & 長文問題の解き方 (簡単) → 必勝シリーズ (標準) → 都トレ (応用)
 - ◆ 選択肢は 2 つまでは絞れる
- ◆ 3 行作文 (12 点)
 - ◆ 長文問題の理解ができている必要がある
 - ◆ 長文問題の最後の方に問題があることが多い
 - ◆ ポイント 
 - ◆ 減点されない文章を書くこと
 - ◆ 1 行目：質問に対する答え
 - ◆ 2 行目以降：補足文を 2 行書く
 - ◆ 型・構文を使う
 - ◆ I want ○○
 - ◆ It is ○○
 - ◆ I think ○○
 - ◆ Make OC 「・・・をさせる」
 - ◆ 苦手な生徒
 - ◆ 日本を書かせる (英語にしやすい文章を作る)

○ 理科

- ◆ 解き方のポイント 
 - ◆ ① 理科のオリジナル教材を確実に覚えさせる
 - ◆ ② 解説は基本的にはせず、時間管理をする
 - ◆ 必要な部分は線を引いてもらう

○ 社会

- ◆ 解き方のポイント 
 - ◆ ① 理科のオリジナル教材を確実に覚えさせる
 - ◆ ② 解説は基本的にはせず、時間管理をする
 - ◆ 必要な部分は線を引いてもらう
 - ◆ ③ 並び替え問題が多い
 - ◆ 用語を覚えるだけでは点数が取れない
 - ◆ 誰・何が何時代にあったかを理解しておく必要がある

● 冬期講習の目的

- ① 1 月の V 模擬で A 判定 (1/8・1/14) ※受験生
- ② 2 月の定期試験に向けた予習を主に行う
 - ◆ 理想は試験範囲を冬期講習中に終える
 - ◆ 英語の重要単元は復習もあり
 - ◆ 受動態の前に過去分詞を覚えておく
- ◆ 中 2 の証明は一緒に書いて覚えてもらう
 - ◆ 書くのではなく、言わせる

- ◆ 3つくらい簡単な証明の問題を作る
- ◆ 2月の定期試験で自己ベストを取れる

- 宿題

- 受験生の宿題
 - ◆ 授業でやったところの解き直し
 - ◆ 授業で1回解く
 - ◆ 宿題で間違えた問題だけ再度解いてきてもら
- 付箋を活用する
 - ◆ 宿題を必ず付箋に書く
 - ◆ 持ってこない子は筆箱に入れる
 - ◆ 宿題をの1週間の予定を立ててあげる